

2014年10月8日
第一生命保険株式会社

ブラジル沖石油生産設備向け傭船事業に対するプロジェクトファイナンスへの融資について

第一生命保険株式会社(代表取締役社長 渡邊光一郎)は、付加収益の追求及び分散投資推進の観点から2013年度より環境・インフラ案件を含めた成長分野への投融資を強化していますが、今般、ブラジル沖で石油生産、貯蔵等に使用されるFPSO(※1)の傭船事業に対し、約30億円の融資を実行しました。外貨建てプロジェクトファイナンス案件への融資は、当社として初めての取組みとなります。

ブラジル沖では、近年大型の石油・ガス田の発見・開発が進んでおり、これらの海底石油・ガス田の開発に向け、FPSOへの需要が拡大しています。今般、当社が融資する傭船事業は、FPSO分野で多くの実績を有する三井海洋開発株式会社が、三井物産株式会社、三菱商事株式会社と共に、ブラジル沖の大水深油田の権益を有する国営石油会社Petróleo Brasileiro S.A(ペトロbras社)をはじめとするブラジル沖BM-S-9ブロックコンソーシアムメンバーが設立したオランダ法人Guara B.V.社に対して実施しているものです。(スキーム図は別紙ご参照)

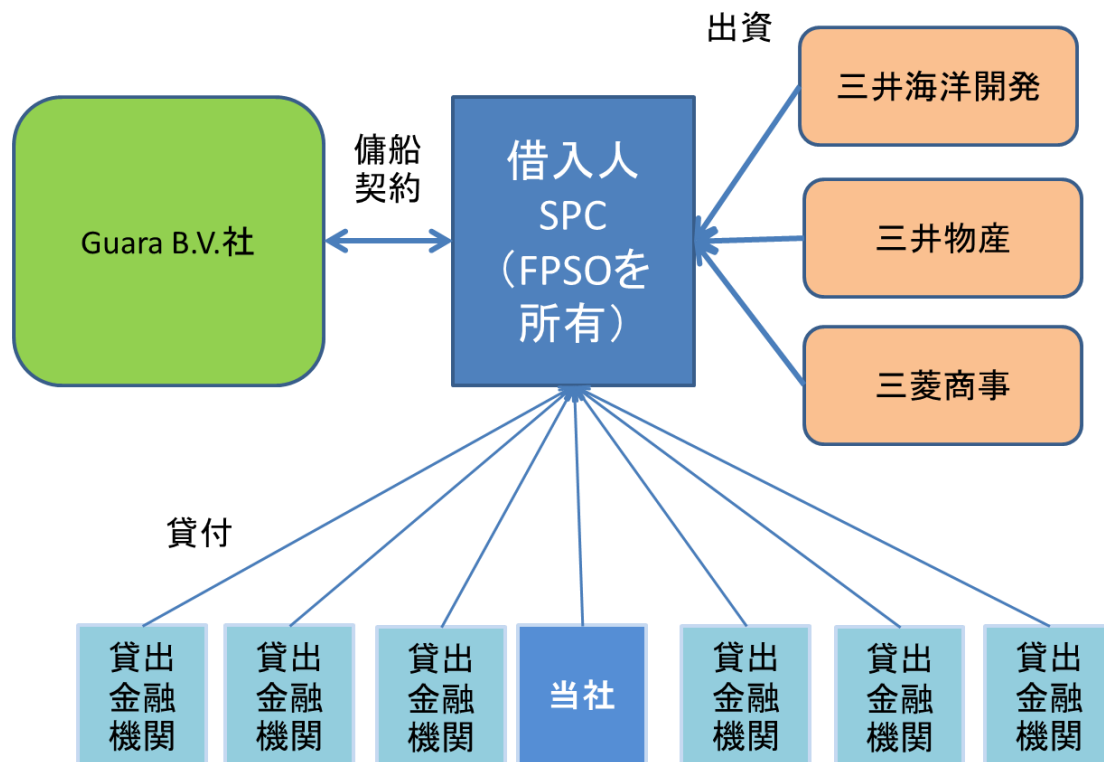
本事業において建造されたFPSO「FPSO Cidade de Sao Paulo MV23」は、プロジェクトファイナンスにより調達された資金により既に完成・稼動しています。当社は、プロジェクトファイナンスによる貸出債権の一部を取得することを通じ、本事業への融資を行います。

当社は、今後も機関投資家としての本来機能を発揮して成長分野への投融資を積極化することにより、国際的に競争力を有する日本企業のインフラ分野における取組みをサポートしていきたいと考えています。また、付加収益の追求、運用資産分散の観点から、国内外を問わずプロジェクトファイナンスに今後も継続的、積極的に取り組んでいきます。

※1 FPSO: Floating Production Storage and Offloading System の略。浮体式の原油の一次処理(井戸元より生産された原油から、随伴ガス、水を分離すること)・貯蔵・積出設備。

(別紙)

スキーム図



本FPSO

